

「聖徳大学の6ヶ月のインターンシップ」

日本インターンシップ学会研究部会
聖徳大学 人文学部 現代ビジネス学科
島田 薫

日時 2004年3月13日

場所 中央大学理工学部 後楽園キャンパス

はじめに

聖徳大学のインターンシップは現代ビジネス学科が発足した2000年4月からスタートした。6ヶ月という長期にわたり、また必修ということで注目をあつめた。今回、1期生である47名が卒業となり、きちんとした就職までのデータが整ったことで結果がはっきりし、多くの問題点も浮き上がり興味深いものとなった。

1997年に文部科学省がインターンシップの推進を打ち出し援助金が大学に交付されることになり、全国の大学が取り組む方向になってきた。学科発足時はインターンシップといっても企業側が理解できない場合がかなりあったが、今日では社会的にも認められ、新しいインターンシップが現れてきた。今回、当校でのインターンシップの結果として就職率の100%近い数字は就職難といわれる時代に驚きといえよう。インターンシップが即、その企業に就職ということではなく、大学生が働く意義や社会の本質を理解できたことが大きな収穫となり就職活動を上手く展開したといえる。

いずれにしても年間約3万人(2003年)の大学生がインターンシップを経験する時代となり、特色あるインターンシップが広がることを願うものである。

2004年3月

日本インターンシップ学会
「聖徳大学の6ヶ月のインターンシップ」

聖徳大学 現代ビジネス学科
島田 薫

実施目的

- 1 本学で学んだ多くのことを実務に結びつけることによって実務能力を身につけさせる。
- 2 企業・団体・官庁などの仕組みや仕事の流れ、職場の環境を体験する。
- 3 実体験を通して自分自身の職業の適性や将来の設計を考える。
- 4 働くことの意義と厳しさを認識する。

概要

- 1 正式名称 ・ 聖徳大学現代ビジネス学科インターンシップ
- 2 期間 ・ 10月～3月（6ヶ月間）3年次後期、
- 3 対象 ・ 3年次生全員
・ 学科必修の為、インターンシップを終了しない場合、卒業できない
- 4 受け入れ先 ・ 東京を中心に関東圏の企業・団体・官公庁など
・ 企業は現在50社ぐらいが登録されている
・ 企業開拓は担当者や教員の紹介
・ 学生が希望の会社を選択する
- 5 人数 ・ 各1～2名
- 6 単位 ・ 4単位
・ インターンシップ ・ でそれぞれ2単位となっている

受け入れ先について

- 1 採用との関係
・ 採用とは直接関係ない
- 2 企業側への対応
・ 企業側とインターンシップの申請書を取り交わしている
・ 守秘義務や就業規則の遵守を徹底する
・ 災害補償は学生が全員、保険に加入
・ 教員が毎月企業を訪問し、状況報告をレポートして学科長に報告する
・ 企業は事前に学生との面接はしない
・ インターンシップ中の監督者として指導員を置いてもらう
- 3 受け入れ先からの学生への謝礼など

- ・ 原則として無報酬（昼食代、交通費も同じく自己負担）

4 インターンシップ終了後

- ・ 学生の個人評価をし、所見を大学に提出してもらう

期間中の大学側の対応

- ・ 事務方の窓口（インターンシップ室）を設置する
- ・ インターンシップ先にはインターンシップ室から挨拶に伺う
- ・ 企業との交渉は担当教員とインターンシップ室が対応する
- ・ 教員は担当学生（3～4名）の企業に毎月訪問し、指導員から直接勤務状況を聞き、報告書を作成し大学に提出する
- ・ 学生は定期的（隔週）に企業に許可を受けて担当教員と大学に報告に登校するので個別に面談する
- ・ 運営体制はインターンシップ運営委員会が行い、事務はインターンシップ室が担当する

インターンシップ履修学生について

1 事前指導（インターンシップ）

（1）事前指導の内容

受け入れ先や業界の予備知識を習得
実習目的の明確化
ビジネスマナーを徹底的に習得
日本語表現力の向上をはかる。
パソコン能力のスキルアップ
前年度のインターンシップ生から報告を聞く

2 事前手続き

候補の企業を調査して自分の適した企業を決める
（多くの学生が集中した場合は条件を満たした上位のものが優先権をもつ）
決定した企業の概要を詳しく調べる
実習先企業の事前訪問をして報告書を担当教員に提出する

4 インターンシップ中の対応（インターンシップ）

企業側プログラムを組む場合もあるが、初日から他の従業員と同じ勤務をすることになる
身分は学生であるが、社会人として働く
欠勤は企業の担当者と大学のインターンシップ室の両方に事前に連絡する
大学作成の出勤簿に毎日押印し、毎月提出する

勤務状況を日誌に毎日書き、企業側のコメントと共に毎週担当の教員に提出する
毎月、隔週にインターンシップ室と担当の教員に報告に行く

5 インターンシップ終了後

学生は感想文やアンケートを作成する
全員で意見交換や感想を発表する

インターンシップに関する意識調査の結果（2003年度、3年生47名）

履修前と履修後を比較し、各自の重要度を5段階評価した結果

学科内の授業科目「マナー」	履修前	履修後
自分にとってのインターンシップ制度の大切さ	3.11	4.36
大学での勉強の大切さ	3.16	3.75
マナーの大切さ、もっと学んでおけば良かった	3.84	4.45
挨拶の重要さ	4.59	4.82
電話で正しく対応する	4.25	4.57
正しい敬語を使う	4.48	4.84
時間厳守	4.2	4.55
責任ある行動	3.95	4.75
人間関係（来客や社内の人に適切に対応する）	4.36	4.8
授業科目「パソコン」		
パソコンの大切さ、もっと学んでおけば良かった	3.77	3.66
キーボードを見ないで入力すること	4.02	4.14
ワードを用いた文書作成	4.07	4
エクセルでの表作成など	4.09	3.95
授業科目「英語」		
英語の大切さ、もっと学んでおけば良かった	3.48	2.91
英会話	3.2	2.77
英語の重要性	3.27	2.59
授業科目「社会常識」		
社会常識の大切さ、もっと学んでおけば良かった	4.02	4.43
新聞	3.61	4.18
日本語	3.68	4.5
発表力	4.02	4.61
ビジネス文書作成の知識	3.95	4.14
簿記の知識	3.39	3.23
数学（算数）	3.45	3.68
経済（日本経済の流れや株価など）	3.64	3.73
経営（会社の組織など）	3.8	4.34
法律	3.11	3.52
その他（インターンシップ中に自然に学んだこと）		
他の人と協調して働くこと	3.89	4.6
就職がいかにか大変か分かった	3.98	4.89

聖徳大学インターンシップの特徴

- 1 6ヶ月という日本で一番長期間のインターンシップ
- 2 学科必修なのでインターンシップに行かないと卒業できない
- 3 無報酬で働く
- 4 インターンシップ受け入れ先を学生が探さなくて良い
- 5 インターンシップに行く前に企業の新人研修をすべて終えている
- 6 就職率が高い(97.6%)

学生がインターンシップを経験した良い点

- 1 大学生という生き方が無責任であることに気が付く
- 2 正社員になることがいかに大変か理解する
- 3 社会と自分の関係を認識する
- 4 企業が望む人間像を知る
- 5 自分の常識のなさが分かる
- 6 人に配慮し、思いやる心ができる
- 7 就職に対して真剣になる
- 8 まわりの人と協調することが大事で、また簡単ではないと分かる
- 9 社会の厳さ知る
- 10 事前勉強とインターンシップとで企業に就職したときに即戦力となる力がつく
- 11 アルバイトと正社員の相違が明確に分かる
- 12 時間を守り、お金は正確に管理するという意識をもつようになる
- 13 体調管理ができるようになる
- 14 組織としての会社が理解できるようになる
- 15 社会人としての一般知識や電話応対などのビジネスマナーが身に付く
- 16 自分から積極的に働くことができるようになる
- 17 正しい敬語や言葉遣いができるようになる
- 18 忍耐強くなる
- 19 目上の人とコミュニケーションがとれるようになる

インターンシップに関する質問

- Q1 半年間、学生は大学に登校しないのか**
A 隔週の金曜日に企業から休みをもらい登校する。大学のゼミの教員にインターンシップについて報告に行き、またインターンシップ室にも事務連絡をする
- Q2 インターンシップ先の企業はどうやって探すのか**
A 大学のインターンシップ室が用意してある企業から学生が選択する
- Q3 インターンシップ先に就職することが前提になっているか**
A 就職とはまったく関係ないことになっているが、企業側からの要望で就職する学生もいる
- Q4 半年間の大学の授業はどうなっているか**
A インターンシップに行く前の半期とその後の半期とに授業を振り分け、学んでいる
- Q5 インターンシップ先の企業からはどんな反応があるか**
A 無報酬なのによく働き社員へのよい刺激となっている。また、貴重な労働力として感謝されている
- Q6 学生達は半年間を長いと感じているか**
A インターンシップが終了後は長いという意見が多いが時間が経つと半年だから良かったという
- Q7 半年間で2単位なのはなぜか**
A インターンシップに多くの単位を与えると他の授業が少なくなってしまい、カリキュラムの充実がはかれない
- Q8 インターンシップを経験した学生の評判はどうか**
A 就職との関連で時期について問題とした以外、8割以上の学生が評価している